

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校	柏崎市立田尻小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	2	21	26
児童数	110	76	92	92	92	90	3	555	

・実践研究の概要

1. 主 題(テーマ)

個に応じた指導による子供の可能性や意欲を高める指導方法，学習形態の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

学 年	教 科	実 施 の 理 由(備考)
1・2年生	各教科で日常的な少人数指導	・1学級30人以下の日常的な少人数指導を実施する。ただし，国語科・算数科の重点領域においては，学級解体による少人数指導を実施する。
3～6年生	国語科 算数科	・理解度や習熟度に差が出やすい国語科，算数科における学力向上を目指し，各教科とも指導の重点領域で少人数指導を実施する。 ・国語科・算数科において，各学級担任と1名の教員による習熟度別や課題別少人数指導を実施する。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ</p> <p>学力の向上につながる課題別，習熟度別少人数指導のあり方</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1, <u>個の実態に応じた指導方法及び学習形態の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NRT 学力検査分析による学力実態の把握と国語科・算数科における重点領域の設定</li> <li>・ 年間指導計画と単元担当表の作成</li> <li>・ 少人数指導の実践（各学年）と効果的な指導のあり方の検討</li> </ul> <p>2, <u>指導の改善に有効な学習評価の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習意欲の向上につながる自己評価の方法</li> </ul>
----------------	---

- ・ 保護者へのアンケート意識調査の実施
- 3, **中学校との連携による学力向上の取り組み**
  - ・ 小中連携による学力実態の分析検討
  - ・ 9年間を見通した指導計画・学習内容一覧表の作成
- 4, **教科サポーターによる学習支援体制の整備**
  - ・ 教科サポーターについてのアンケート実施
  - ・ 保護者や地域の人々の協力を得るための条件整備

## テーマ

学習内容の系統を踏まえた効果的な少人数指導のあり方

### 研究内容・研究方法

- 1, **個々の実態に応じた指導方法及び学習形態の工夫**
  - ・ 年間指導計画の見直しと修正
  - ・ 学習内容の系統をおさえた少人数指導の展開  
各学年国語科，算数科での少人数指導の実践。但し 1・2 学年は，学校体制の中で可能な範囲での実践。
  - ・ 個々の実態や理解のスタイルに応じた教材支援とその開発
- 2, **指導の改善に有効な学習評価の工夫**
  - ・ 自己評価能力を促進する評価活動のあり方の検討と実践
  - ・ 形成的評価のためのワークシートの工夫と蓄積
  - ・ 指導の改善に生きる学習評価のあり方の検討とその活用
- 3, **中学校との連携による学力向上の取組**
  - ・ 具体的な授業参画・授業交流のあり方の検討と実践，(小中学校の連携の一層の推進)
  - ・ 「読み・書き・計算」の基礎学力向上を目指した共通取組の実践
- 4, **教科サポーターによる学習支援体制の整備**
  - ・ 教科サポーター活動の呼びかけと紹介
  - ・ 教科サポーターの授業参画のための諸条件についての検討
  - ・ 各学年による教科サポーターを導入した少人数指導の実践
  - ・ 教科サポーターリストの作成

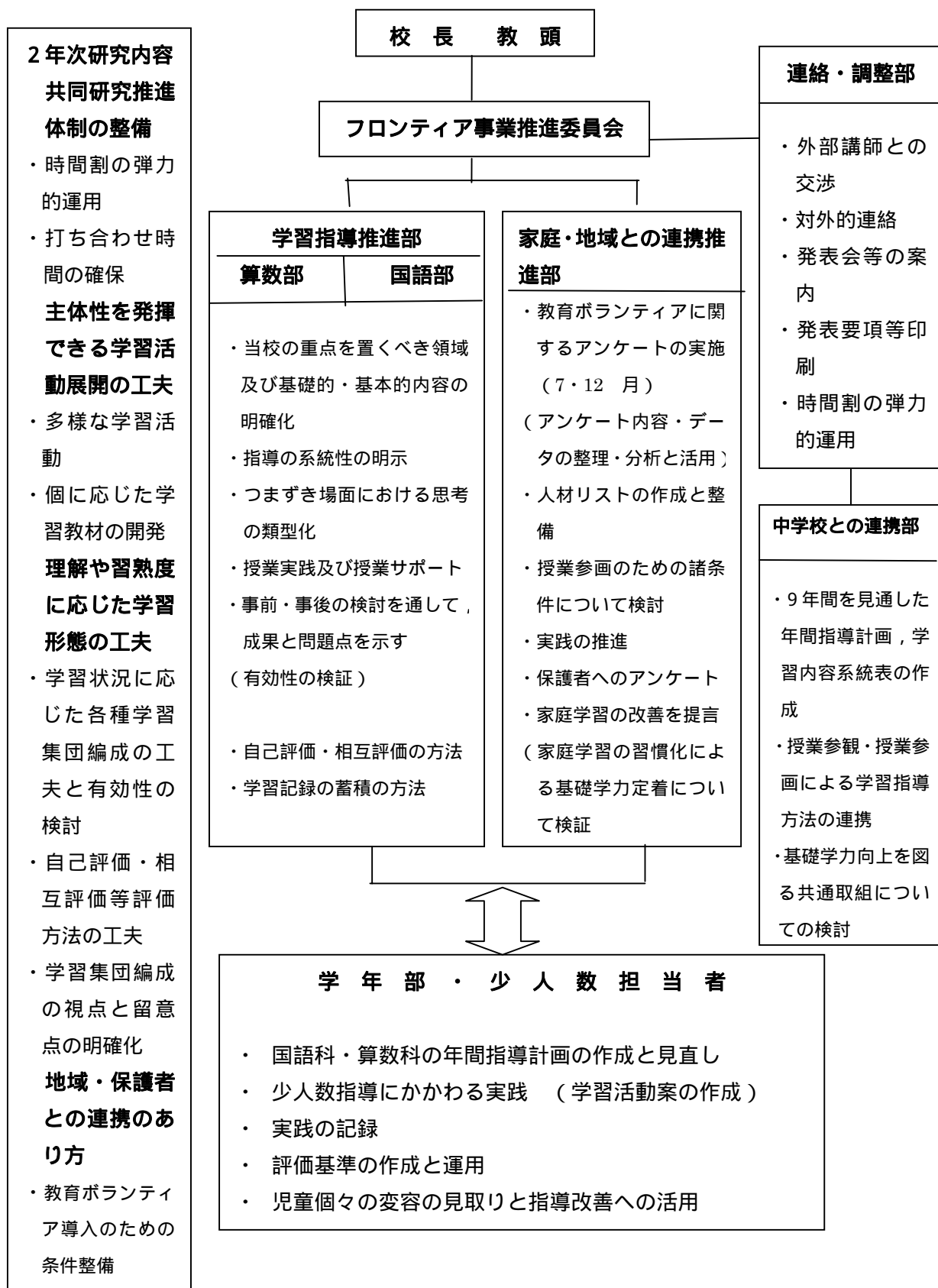
## テーマ

円滑で効果的な少人数指導の積極的推進

### 研究内容・方法

- 1, 個々の実態に応じた指導方法及び学習形態の工夫
  - ・年間指導計画と学習内容系統一覧表に基づく, 習熟度別・課題別少人数指導の実践と改善
  - ・「学習グループ編成の視点」, 「各コースによる単元構想」, 「個に応じた教材支援」など研究内容の総括
  - ・学力向上における習熟度別・課題別少人数指導の成果の総括
- 2, 指導の改善に有効な学習評価の工夫
  - ・自己評価活動の継続による自己評価能力の育成
  - ・評価情報の共有化とネットワーク化の推進
- 3, 中学校との連携による学力向上の取組
  - ・9年間を見通した指導計画・学習内容一覧表の見直しと修正
  - ・学力向上における共通取組の継続と成果の検証。
- 4, 教科サポーターによる学習支援体制の整備
  - ・保護者や地域の人材による教科サポーターを導入した少人数指導の展開

( 3 ) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 習熟度別少人数指導の充実

1 年次の課題から今年度は「学習の系統を踏まえた効果的な少人数指導の在り方」をテーマとして、特に習熟度別少人数指導における各コースの単元構成や学習活動を工夫し、効果的な少人数指導の在り方について実践検討を行ってきた。

各コースでの学習を充実させるために、学習内容の系統を見直し、単元で「付ける力・伸ばす力」を明確にした学習指導を展開してきた。

【国語科の取組と成果】

- ・説明的文章における「読むこと」の力を高めるため、基礎・基本となる指導内容を一覧表により具体的に示し、単元での「目指す子供の姿」を明らかにして習熟度別少人数指導を実践した。
- ・各コースの実態に応じて、教材文を「スモールステップで読み取る（基礎）」・「ワークシートを手がかりに自分の力で読み取る（標準）」・「話し合いで個々の読み取りを深める（発展）」等の工夫により学習活動を構成した。
- ・習熟度別少人数指導実施後の評価テストの結果は次の表の通りである。習熟度別少人数指導を行っていない単元で、比較可能な4学年中3学年で平均点の上昇が見られた。特に顕著な成果として、習熟度別少人数指導を実施した単元でC・B評価が減少し、A評価が増加していることが挙げられる。このことは、コース別平均点の比較からも分かるように基礎と標準コースでの成績の向上が顕著であることを示していると考えられ、昨年度と同様の傾向である。

< 国語評価テストの結果集計（1月下旬現在） >

印は、習熟度別少人数指導を実施した単元。空欄は、今後実施の予定。

学年平均点の右欄は、習熟度3コース（基礎・標準・発展）の平均点。

その右側は、それぞれの評価（A90点以上・B89～60点・C60点未満）の割合%を示す。

<1年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
★ じどう車くらべ	92.0	77.1	93.7	×	76.0	22.2	1.8
どうぶつの赤ちゃん							

<2年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
たんぼぼのちえ	93.8	81.8	94.5	97.4	81.1	18.9	0.0
★ サンゴの海の生きもの	97.1	94.2	96.3	100.0	93.5	6.5	0.0

<3年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
★ ありの行列	77.4	54.4	79.7	85.5	32.0	59.0	9.0
★ 動物とくらす	78.6	62.0	80.6	84.6	41.0	51.0	8.0

<4年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
★ ツバメがすむ町	90.0	85.7	91.7	×	69.0	29.0	2.0
★ 体を守る仕組み	94.5	92.2	95.4	×	80.0	20.0	0.0

<5年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
★ 一秒が一年をこわす	86.3	46.0	77.0	98.0	73.0	19.0	8.0
★ ニュースを伝える	86.7	71.0	85.0	91.0	60.0	36.0	4.0

<6年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
★ 外来語と日本文化	86.2	63.5	89.2	96.7	63.3	30.0	6.7
★ 平和のとりでを築く							

【算数科の取組と成果】

- ・各コースの児童の実態に合った学習内容を学年で検討し、扱う問題・教材・教具・学習プリントを吟味して各コースの単元を構想した。
- ・つまずきを早期に発見し、そのつまずきに対してヒントカードや個別プリントで個々に対応するために、評価カルテを用いて一人一人を細かく見取り個に応じた適切な指導を行った。
- ・習熟度別少人数指導実施後の評価テストの結果は次の表の通りである。習熟度別少人数指導を実施した単元での学年平均点は高く、C評価が減少してB,A評価が増加している。基礎コースの平均点の上昇はほぼ全学年で確認され、習熟度別少人数指導が基礎コースの成績の向上に有効であったことを示している。
- ・全学年で年間3単元の習熟度別少人数指導を行い、その後の成績の結果を検討するなかで、今後、習熟度別少人数指導の実施が必要である単元と実施の必要性がない単元の検討が可能となった。このことは、次年度のより一層の習熟度別少人数指導の充実につながる。

< 算数評価テストの結果集計（1月下旬現在） >

印は，習熟度別少人数指導を実施した単元。空欄は，今後実施の予定。

学年平均点の右欄は，習熟度3コース（基礎・標準・発展）の平均点。

その右側は，それぞれの評価（A90点以上・B89～60点・C60点未満）の割合%を示す。

<1年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C	
	たし算(1)	94.9	89.2	97.7	97.7	94.4	4.6	1.0
★	ひき算(1)	93.2	88.0	96.0	95.7	86.1	13.9	0.0
★	たし算(2)	94.4	90.0	95.5	97.8	90.7	9.3	0.0
★	ひき算(2)							

<2年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C	
★	たし算	92.8	87.5	96.5	94.0	78.7	21.3	0.0
★	ひき算	88.6	69.6	90.1	95.6	67.2	27.6	5.2
	たし算とひき算(1)	80.3	59.2	83.8	87.5	43.4	47.4	9.2
★	かけ算(3)	95.8	93.5	95.4	97.5	92.0	8.0	0

<3年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C	
★	かけ算	91.0	87.0	90.0	94.0	74.0	25.0	1.0
	かけ算の筆算	90.4	86.0	88.0	91.0	68.0	30.0	2.0
	大きな数	80.8				47.0	45.0	8.0
★	あまりのあるわり算	89.0	86.0	88.0	92.0	47.0	50.0	3.0
★	2けたのかけ算							

<4年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C	
	1けたでわるわり算	80.9	66.8	81.0	89.1	31.9	60.4	7.7
★	2けたでわるわり算	87.7	79.1	87.8	92.4	60.4	36.3	3.3
★	小数	95.6	94.9	94.8	97.7	89.0	11.0	0.0
★	分数	88.8	80.3	87.8	96.2	68.1	24.2	7.7

<5年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C	
	小数と整数	92.8	86.9	93.2	95.0	85.0	14.0	1.0
★	小数のかけ算	81.9	68.6	80.8	90.7	37.0	55.0	8.0
★	小数のわり算	81.2	56.1	82.1	93.5	50.0	39.0	11.0
★	分数	88.9	71.4	87.0	94.0	73.0	24.0	3.0

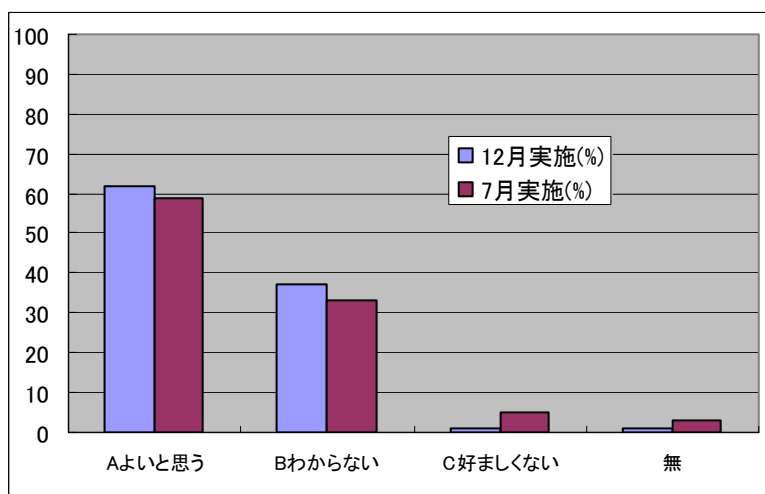
<6年>

	学年平均点	基礎	標準	発展	A	B	C
倍数と約数	76.3	44.8	76.1	89.0	32.0	51.0	17.0
★ 分数	90.3	71.5	90.9	96.0	71.0	26.0	3.0
★ 分数のかけ算・わり算①	93.3	83.3	93.3	96.7	83.0	15.0	2.0
★ 分数のかけ算・わり算②	84.0	78.7	83.3	87.3	26.0	73.0	1.0

### (2) 教科サポーターによる授業参画

- ・昨年度からの実践により、効果的な教科サポーター形態（「サポーター型」「グループ担当型」「エリア担当型」等）が工夫された。
- ・教科サポーターによる学習支援の実施について、保護者の賛同を多く得られることができた。次のグラフは、「教科サポーターの参加についてどのように思うか」の回答結果である。年度当初との比較で、「好ましくない」が減少し「よいと思う」が増加している。実践を重ねることとその取組の紹介による成果と考えられる。

<教科サポーターに関するアンケート結果>



### (3) 中学校区での連携

- ・国語科・算数科での授業検討、授業参観の実施と第5学年の算数科で中学校教師との連携授業が実施され、教師にとっては教材研究や指導方法等指導力の向上につながった。
- ・9年間を通して望ましい学習習慣を形成することを目指して、1年次から引き続き「基本的な学習ルール」の指導を行った。特に重点を置いて取り組んだ「学習の準備」や「始業時間の厳守」「話の聞き方」については、児童自身による自己評価が高まってきている。



## 2 今後の課題

### 習熟度別少人数指導の推進と充実

- ・国語科・算数科の両教科とも，習熟度別少人数指導の成果が確認された。今年度の指導の成果をもとに，各単元における習熟度別少人数指導の有効性を再検討し，実施単元を吟味していくことが必要である。
- ・習熟度別の各コースでは，単元構成や学習活動が工夫されてきた。しかしコース内でも児童の実態は様々であり，個々の実態にきめ細かく応じることについては，十分であったとはいえない。コース内の児童の実態の多様性に応じることができるような教材の工夫や学習活動，学習形態をコースごとのねらいに即してさらに工夫していく必要がある。

### 学習評価の工夫と改善

- ・学習カルテを改善し，評価規準・評価基準を作成することによって全学年を通して，統一のとれた絶対評価が行われるようになった。一方，習熟度別少人数指導における評価については，コースごとに伸ばしたい力が異なっており，学習活動もコースごとに工夫されている。したがってコース別での学習によって伸びた力を的確に見取っていく評価を工夫し，その評価を指導に生かしていくことが課題となる。

### 学習意欲の一層の向上

- ・習熟度別少人数指導について，アンケート結果から学習の充実感や満足感をもっている児童の割合は高く，昨年度との比較からよい傾向にあるといえる。しかし学級をはなれてのコース別学習不安を抱いている少数の児童に対する配慮を行い，意欲的に学習に取り組めるように支援していかなければならない。

### 教科サポーターによる学習支援の充実

- ・保護者だけでなく広く地域へ働きかけ，サポーター数の確保に努める。取組計画を明らかにして，学校としての推進体制を整えていく。

### 中学校区での連携による望ましい学習習慣の形成

- ・全教師の共通理解のもと9年間を通して望ましい学習習慣を形成することは，学力向上を支える基盤を培う面から大きな意義がある。学習習慣について自己評価する機会を作り，児童自身の自覚を高めたい。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 学年漢字・計算テストの実施（全学年年間8回実施：漢字の読み書き，計算の力の定着をみる）
- ・ 単元後の評価テスト（単元学習後実施：学習内容の理解と定着の把握する）
- ・ NRT 標準学力検査（全学年1年に1回実施：学力の実態を客観的に把握する）
- ・ AAI（学習適応性検査）（5,6学年対象1年に1回実施：学習習慣の形成等をみる）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 第1回柏崎刈羽地区地域協議会

実施日 平成15年6月24日

場 所 柏崎市立田尻小学校

対 象 柏崎刈羽地区小中学校代表校長

### 学力向上フロンティア事業 第2年次中間発表会

実施日 平成15年10月29日

場 所 柏崎市立田尻小学校

対 象 柏崎刈羽地区小中学校教諭

テーマ

個に応じた指導による子供の可能性や意欲を高める指導方法，学習形態の工夫  
学習内容の系統を踏まえた効果的な少人数指導の在り方

リーフレットの作成

### 第2回柏崎刈羽地区地域協議会

実施日 平成15年2月26日（予定）

場 所 柏崎市立第二中学校

対 象 柏崎刈羽地区小中学校代表校長

### 研究成果普及のための活動実績（県外からの視察受入）

・実施日 平成15年11月17日

対 象 福島県田村郡三春町教育協会役員・三春町内公立小中学校教員

・実施日 平成15年11月19日

対 象 福島県石川町小中学校長

・実施日 平成15年11月21日

対 象 東京都品川区立源氏前小学校教諭

・実施日 平成16年2月19日

対 象 大阪府松原市立布忍小学校教諭

ホームページによる取組紹介

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無